

報告回Report(前半)

参加者 / 21名
 チャレンジャー 8名
 オブザーバー 3名
 アドバイザー 2名
 事業実施者 3名
 市職員 5名

2024.3.14(木) 18:00~20:00 福岡商工会議所2階 第2研修室

今回のテーマ

企画の実施報告を行う

今年度8回目となる勉強会は、「報告会」として、各チームで実施した企画の実施報告を行い、チームごとに振り返りと今後の展望について発表を行いました。



まずは、福岡市地域産業支援課長より挨拶を行いました。「チャレンジャーの皆さんから企画案を発表

してもらった時に、今からが始まりですよというようなことをお話したと思います。企画を進める中で大変なことも多かったと思いますが、企画したことが実現できるのかどうか、一生懸命悩みつまづきながら、いろいろなことにチャレンジできたのではないのでしょうか。十分じゃなかった点もあるかもしれませんが、無事に2月にそれぞれやりたいことができたことは良かったです。ひとまず今年度お疲れさまでした。」その後、各チームの報告の時間とし、杉本先生からの講評をいただきました。

※各チームの活動内容については、当日レポートをご確認ください。

プログラム

- ①オープニング
福岡市より
- ②企画の実施報告
 - 1、子ども商店街チーム
 - 2、日常(商店街ガイド)チーム
 - 3、ウィキペディアチーム
- ③グループワーク
- ④宣言
- ⑤閉会

子ども商店街チーム



(発表概要)

- ・テーマである「子どもを集めることで、その親や祖父母も集まり、多世代交流の場を作る」という目的を果たせた。
- ・このイベントをきっかけに子どもたちが商店街や地域に愛着を持ち、さらにはファンになることで、商店街や地域を支えるキーパーソンとなってくれることが最大の目標。そのためには継続性が必要不可欠なので、よりよい事業となるよう考えていきたい。

杉本先生 | 今回子どもを集客できている点が良かったですね。チラシの配布数に対して集客数がやや少ないように感じたので、その点が今後の課題かなと思います。親に魅力的な企画と子どもに魅力的な企画を上手に連携させるという部分に着目するとより良くなるかもしれませんね。

日常(商店街ガイド)チーム



(発表概要)

- ・今回のガイドを通じ、商店街の店舗・地域ガイド者や地域の魅力・お客さんをつなぐ関係性をつくることにつながった。特に、お客さんだけではなく、店主・店員の側からも、お客さんとコミュニケーションがとれたことをプラスと捉えてもらったことは、予想以上の良い点だった。
- ・今後は箱崎商店街でのガイドを継続しつつ、市内の他商店街でのガイド実施も行い、商店街を日常の選択肢として選んでもらえるように活動していきたい。

杉本先生 | 90年代ぐらいに流行したマーケティングの世界での「ワークショッップ営業」という考え方に近いものを感じました。ガイドを実施することで、来街者にどのようなニーズがあるのか、ガイドする側は何をしたらいいのかということを手を上げて把握されていたのではないのでしょうか。

ウィキペディアタウンチーム



(発表概要)

- ・「商店街」と「ウィキペディア」という一見結びつきがないように見える取組みの中で、まち歩きや地域の歴史とともに、商店街の紹介ができた点は相互に良い取組みだったと思う。
- ・インバウンドなども意識し、今後は外国語版のウィキペディアも作成していきたい。

杉本先生 | 企画内容が地元商店街との結びつきが弱いのではないかという話がありましたが、地域とはしっかりと結びついた企画となっており、かなり工夫できたのではないのでしょうか。食事やおやつも、地元店舗から提供した点はすごく良かったですよ。

木藤 | 本当にお疲れさまでした。今回ファシリテーションする立場ではあったんですけど、去年までとは全然違うスタイルだったので、自分自身も結構模索しながらやっていました。我々が動ききれないところとか、皆さんにご負担が乗った部分もあったかなと思うんですけど、しっかりとそれぞれ形になりましたし、今後色々検証できる材料も得られた気がするので、今からの時間で皆さんとディスカッションし、今回の取組みが今後に生かしていけたらなと思います。

報告回Report(後半)

2024.3.14(木) 18:00~20:00 福岡商工会議所2階 第2研修室

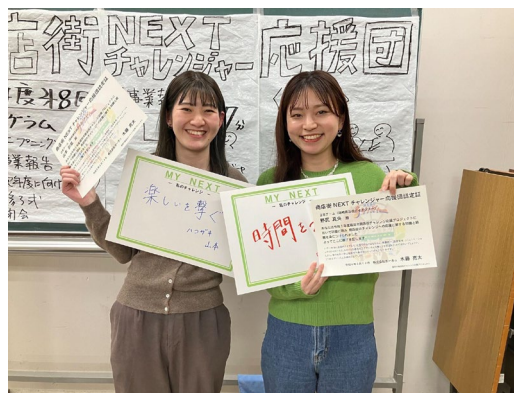
今後について(飛田先生・杉本先生より)

飛田先生 | 確か前回コメントした際に、企画をつくる際には、「集客」という部分を軽視していまい、プログラムを作っていくところばかりに集中してしまうという話をしていたんですけど、報告資料を拝見した限りでは、いずれも集客を見据えた企画としてしっかりと形になったようですね。取り組みを進める中で、最初はすごく不安になったりして、本当にお客さんが来てくれるんだろうとかすごく考えると思うのですが、皆さんは日頃から商店街で活動されているので、企画がすごく形になっていて、改めてこのチャレンジャーの活動は素晴らしいなと思いました。ただ、我々も仕事柄言わないといけないんですけど、今回はあくまでも通過点で、次どうしていくのか、これを継続していくのか、別の新しい形でやっていくのかということを考えていきたいと思います。色々課題も出ました。チャレンジャーの1つの役割というのは、街に活気を与えながら、いろんな人を巻き込んでいくということだと思っています。終わったばかりでこんなこと言うなよと思うかもしれませんが、何かしらの形で続けていただきたいですし、我々も何か関わることができればと思っていますので、是非またお声がけをしていただければと思います。本当に皆さんどうもお疲れさまでした。

杉本先生 | 皆さんの話を聞いていて気づいたことがあります、何かと言いますと、どのプロジェクトにもチャレンジャーたちの「学び」とか「学習」という部分が入ってるなって思いました。私は11月に参加して以来、久しぶりに勉強会に参加しましたが、素晴らしいことをしているなと改めて感じるのですよね。各企画がしっかりと形になって実施されていますし、そこに、「売り上げをとりたい」とか、「地域にある新しい価値を見出したい」とかのテーマがありました。この企画は、「まず知る」「いきなり動く」の後、「動いた結果何かを見て学ぶ」「学んだ結果、それがいいか悪いか考える」という、通常の商売ではなかなか体験できないことができているんですよ。その「学び」が価値になっている。すごくいいことをされてるなと思いました。



<未来への宣言と商店街NEXTチャレンジャー応援団認定証>



8か月間、お疲れさまでした😊